

{ 名医が語る }

備えあれば憂いなし

生活習慣病治療編

コロナ禍でも、生活習慣病を悪化させないためには——。
千葉市若葉区で30年以上の歴史をもつ
板谷内科クリニック理事長の藤本昌紀先生にうかがいました。

コロナ禍の「受診控え」で重症化するケースも

千葉市の北東部に位置し、緑豊かな住宅街が広がる若葉区。板谷内科クリニックは千葉駅から総武線で1駅、都賀駅のすぐそばで地域のかかりつけ医として30年以上診療を行っており、現在は院長の板谷喬起先生と藤

PROFILE

板谷内科クリニック理事長(千葉県)

藤本昌紀先生

ふじもと・まさき 1997年千葉大学大学院医学薬学府修了、同大学第二内科入局。ハーバード大学医学部フェロー、マサチューセッツ州立大学医学部インストラクター、千葉大学医学部附属病院糖尿病代謝内分内分泌科助教及び病棟医長、国保旭中央病院糖尿病・代謝内科部長などを経て、2018年より現職。日本糖尿病学会専門医など。



本昌紀先生の2名体制で内科全般を診察しています。

糖尿病をはじめとした生活習慣病など患者さんの症状は様々で、開業以来診てきた患者さんは3万5000人以上にのぼり、中には家族ぐるみで通うケースも。2021年春には、患者さんに向けてより詳しい情報を発信するため、同院ホームページにも開設予定です。

新型コロナウイルスの流行を受けて藤本先生が懸念するのが「受診控え」。感染を避けるために通院を減らした結果、状態が悪化した患者さんも少なくないそうです。「高血圧、糖尿病、高コレステロールはなかなか自覚症状が出ませんから、症状が明らかになったら相当悪い状態。中には入院寸前の状態になってから、慌てて診察に駆け込む方も見られます」。

自己判断はせずセルフチェックを習慣に

板谷内科クリニックではこの程、換気システムを一新するなど、内装を全面リニューアルし、コロナ禍においても安心して受診できる環境を整えました。

スタッフ全員が常勤のプロフェッショナル集団

看護師、医療事務を含め9名のスタッフ全員が常勤で、全力で患者さんのサポートに取り組んでいます。他へ紹介する場合は紹介状を書くだけでなく、その場で患者さんに代わって予約も取っています。最新検査機器を備え、すぐにHbA1c値の検査結果が分かるようにするなど、細かい点にまで気を配っており、患者さんを主体とした診療体制が地域での信頼につながっています。



仁医たらん
藤本昌紀

DOCTOR'S MESSAGE

「今、各病院は感染対策に細心の注意を払っています。コロナ禍だからと自己判断で過度に受診を控えてしまうと健康維持の妨げになりかねません。適切に医療機関を受診していただき、根拠ある医療を受けてもらいたい」と藤本先生。

また、今はネットで得られる医療情報も多く、自分の症状を自己判断する患者さんが増えています。「どの科に行けばいいか迷ったらまず頼ってほしいのがかかりつけ医。この症状はどの科で診察するのがいいかなど、交通整理をするのも我々の役割です。必要な科の入口まで必ず連れていきます」。

藤本先生は「大事ななのはセル

フチェック」と強調します。「定期検診を受け、毎日の体重計に乗り、血圧を測る……。当たり前のようですが、生活習慣が乱れがちでコロナ禍だからこそ、自分でできる健康チェックを改めて習慣づけることも大切です」とアドバイスをくださいました。